



広報 第六号

# さくら前線

## 『痛み』について

さくらライフ市川クリニック

院長 林 高太郎

日々の診療の中で、患者様からの訴えで多いのは『寝られない』、『便が出ない』、『食欲がない』などですが、その中でも特に多いのが『痛み』です。頭の方から足の先まであらゆる場所の痛みの訴えがあります。

ただ、この『痛み』というのは主観的な概念で、感じている本人以外には同じように感じることも、理解もできません。また、血圧や脈拍のように測定して数字で表すこともできず、レントゲンやエコーなどの画像検査などで評価もできません。そのため、『痛み』のある部位の診察のほかに、その性状を詳しく質問します。例えば『朝起きると頭が痛い』、『空腹時におなかが痛い』、『長く歩くと腰が痛い』、『走ると膝が痛い』などです。

また、『痛み』の強さを評価するために、『チクチク』、『シクシク』、『ズキズキ』など擬音で表現してもらったり、患者様の表情から予測したり、本人に十段階で表現してもらったりする方法などもありますが、いずれにしても客観的に評価することはできません。

さらに厄介なことに、痛みには精神的な痛みというものもあります。慢性的な痛みを訴える場合などに多いですが、物理的に痛みの原因がないにもかかわらず、『痛み』を感じることもあるのです。例えば日頃から腰椎椎間板ヘルニアなどで腰痛発作を繰り返している人に、中腰で重い荷物を持ち上げようとしている人の写真を見せると腰痛を感じるがあるのである。

実は骨折などの外傷だけでなく、感冒や胃腸炎などの多くの病気の初期の症状として『痛み』は非常に重要で、病院受診の良いきっかけになります。重い病気であるにもかかわらず『痛み』がない病気も少なくありません。例えば高血圧や糖尿病では痛みはないですし、ガンなどの悪性疾患ではある程度進行するまで『痛み』がないことが多いのです。



痛みの治療としては内服薬、坐薬、湿布や塗り薬などの外用薬だけでなく、局所麻酔薬などを用いたブロック注射も行っています。また、ガンの末期などで内服などが厳しい場合には、シールのような貼付薬、点滴などを用いて持続的に鎮痛薬を投与する方法などもあります。どのような薬を用いるかは、『痛み』の原因、場所、強さなどで異なります。『痛み』について色々書いてきましたが、『痛み』を治すための一番の近道は、いかに自分の感じている『痛み』を上手に伝えるかにかかっているということなのです。

## 施設紹介

さくらライフ市川クリニックは「在宅緩和ケア充実診療所」の届け出を行っており、終末期の患者様にも対応しています。

また、管理栄養士が在籍し食事や栄養に関するご相談もお受けしています。

内科・精神科・整形外科  
・皮膚科と多様なニーズにお応えしながら患者様の在宅生活を支えています。新規ご依頼についてはまず当院相談員までお問い合わせください。





### 🌸 介護保険サービス利用の負担軽減について 🌸

こんにちは。早いもので今年も半年が過ぎ夏に近づいてきました。介護保険の分野では自宅で介護サービスを受けている方や施設サービスを受けている方で利用負担軽減対象の方にとっては大事な時期になっています。

そこで、介護保険サービス利用の負担軽減の「介護保険負担限度額認定証」と「訪問介護等利用者負担額認定証」の2種類の制度について説明させていただきます。

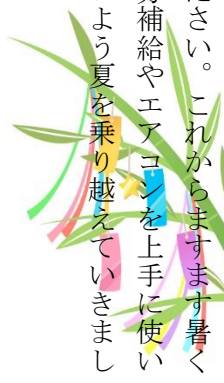
#### ① 介護保険負担限度額認定証

介護保険負担限度額認定制度とは、ある要件を満たせば、介護保険施設を利用する際に支払う居住費と食費を軽減できる制度です。介護保険施設であればショートステイ利用でも負担軽減できます。介護保険負担限度額認定証を受けられる要件は、本人及び世帯員全員（世帯分離している配偶者を含む。）が市町村住民税非課税で預貯金などが単身で1000万円以下、夫婦で2000万円以下の方が対象になります。

#### ② 訪問介護等利用者負担額認定証

訪問介護等利用者負担額認定制度とは、在宅サービス（20種類）の利用者の費用負担を緩和し、適正な利用を推進するため、利用者負担額のうち4分の1から2分の1の範囲で利用料の補助（軽減）を行う、春日部市の事業になります。訪問介護等利用者負担額認定証を受けられる要件は、本人と世帯全員が市町村住民税非課税の方が対象になります。（世帯状況は当該年度の4月1日を基準日とします）

令和元年中の所得状況で8月からの対象者が決まりますので介護保険課から案内が送られてきましたら各担当のケアマネージャーまでご連絡ください。これからますます暑くなってきましたので適度な水分補給やエアコンを上手に使いコロナウイルスにも負けないよう夏を乗り越えていきましょう。



### 🌿 アレルギー治療について 🌿

皆さん、アレルギーといえれば何を思い浮かべますか？毎年、春先になるとなんだかムズムズと思つたらスギ花粉が飛んでいたという方も多いのではないのでしょうか。日本では一人が何かしらのアレルギーを持っていると言われていました。スギ花粉症やダニアレルギー性鼻炎では鼻水やくしゃみ、目のかゆみといったいわゆるアレルギー症状のほかには頭痛や微熱など、人によっては「QOL」を低下させるおそれのある症状が現れる方もいます。症状を抑えるために使う内服薬や点鼻・点眼薬はいわゆる対症療法であり、根本的な治療ではありません。そこで今回は、根本的なアレルギー治療をご紹介します。

「アレルゲン免疫療法」「脱感作療法」「減感作療法」とも呼ばれ、アレルギーを引き起こす物質（アレルゲン）を少量投与し、徐々に量を増やし、身体を慣れさせ、症状を起こしにくくする治療法です。これまでもアレルゲンを含む薬を注射する皮下免疫療法が行われていましたが、近年では薬を舌の下に投与する「舌下免疫療法」が登場し、自宅で行うことができるようになりました。日本ではスギ花粉症またはダニアレルギー性鼻炎と診断された方に適用されています。舌下免疫療法は治療が長期間かつ毎日行わなければならないませんが、近年注目されている治療法で、当院でも行うことができます。ご興味のある方はぜひ一度、ご相談ください。



### ～診療案内～

診療担当医師表は受付窓口にて配布しております。  
必要な方はご遠慮なくお申し付け下さい。  
また随時ホームページにて休診案内を更新していますので、そちらもご確認下さい。  
お問い合わせ番号 (048-746-7071)



HP アドレス

(<http://www.k-sakurahosp.com/>)

HP QR コード→



診療担当医師表 QR コード→

